



富山国際大学 子ども育成学部

2022 年度

# 研究交流活動年報

子ども育成研究交流センター

2023 年 8 月



## 目 次

1. 第14回子ども育成フォーラム（詳録）	1
2. 2022年度 第1回研究交流サロン	11
3. 2022年度 第2回研究交流サロン	17
補遺： 子ども育成学部公開講座のあゆみ	22

---

子ども育成学部研究交流センターは、これからの子ども育成の在り方を探求する地域貢献活動として毎年「子ども育成フォーラム」を開催しています。また、学部の教員間でそれぞれの専門性を生かした研究成果の発表会を「研究交流サロン」の名称で定期的実施しています。2022年度のそれらの活動をここにまとめていますので、ご覧ください。地域の関係者の皆さまと私たちが、子どもたちをめぐる現状と課題をよりよく認識し、家庭、地域、施設（事業所）、行政と手を携えて、広い視野に立つ見識をもって課題解決に向かっていけることを願い、本年報を上梓します。

【子ども育成学部「研究交流活動年報」編集委員会】

---

# 第14回子ども育成フォーラム

テーマ

## 「保育と教育の実践に生かすインプロバイゼーション (即興演劇)」

日時：2022年11月26日(土) 午後1時30分～3時10分

場所：富山国際大学呉羽キャンパスG館1階学生ホール

講師：直井玲子氏(東京学芸大学教育学研究科研究員)

講演題目：「インプロ(即興演劇)から学ぶ<身体表現>と  
<コミュニケーション>」

主催：富山国際大学

後援：公益財団法人富山県ひとづくり財団

コロナ禍における長期間の自粛生活を経て、リモートワークやマスク着用の生活が常態化し人と関わる機会が激減した。この数年間の人々の暮らしからは、「表現する」場も多く失われ、コミュニケーション力や表現力が乏しくなっているように見受けられる。本フォーラムでは、コロナ禍において即興演劇のワークショップをオンラインや対面で精力的に行なっておられる直井玲子氏をお招きし、保育・教育・福祉の分野に携わる人々にも大切な発想力や自己解放性や表現力を豊かにする体験的学びの場をともに経験する。この経験によって培われるものが、チーム・ビルディング、コミュニケーション・スキル、プレゼンテーション能力、問題解決能力などを高めていくための基礎となるよう期待したい。

村上(司会)：ただ今より第14回子ども育成フォーラムを開催します。講演ならびに演劇ワークショップに先立ちまして、本学学長、高木利久より皆様にご挨拶がございます。

高木(学長)：本日は第14回の子どもの育成フォーラムに多数ご参加いただきまして誠にありがとうございます。

私はインプロバイゼーションというと、ジャズの即興演奏ぐらいしか思い浮かばず、それがどうコミュニケーションと結びつくのか全く想像できません。今日は未知の世界のお話が聞けるということで非常に楽しみにしております。新型コロナウイルスがあっけななコミュニケーションが取りづらい状況の中で、今後どういうふうにしていけばいいのかということのヒントにもなるようなお話が聞けるのではないかと考えております。学生の皆さんは多くが人と接する仕事に就くと思いますので、これからの仕事や生活に参考になる話ではないかと思って

おります。それでは、直井先生、よろしくご願ひ致します。

村上(司会)：講師の直井玲子先生のご紹介をします。直井先生は9年間、東京都内の公立保育園に勤務された経験をお持ちです。東京学芸大学大学院の教育学研究科総合教育開発専攻表現教育コースを卒業され、愛媛県の松山東雲女子大学では保育学を教え、東京の青山学院女子短期大学では身体表現、演劇、保育内容表現の授業を担当してこられました。現在は、保育者・教員・医療従事者などを養成する大学で演劇教育やインプロを教えておられ、全国各地で演劇ワークショップを展開し、インプロ演者として舞台にも立っておられます。

今日は、インプロ(即興演劇)という新しい言葉を取り入れ、そこから身体表現とコミュニケーションについて学ぶ貴重な時間を共有し、現場の活動に生かしていけるよう願っております。直井先生、よろしくご願ひ致します。

直井：ありがとうございます。どうぞよろしく  
お願い致します。地域からご参加くださっている  
先生方、そしてこの大学の3年生の皆さん、  
プリントなどはすべて椅子の上に置いて、全員  
で丸を作って立ちたいと思います。(円を作る)

今日はどうしても守っていただきたいことが  
一つあります。それは「頑張らない」というこ  
とです。あなたはあなたのまんまで、無理しな  
い。表現活動は、頑張って気張ってやってもい  
いことなんて何一つありません。楽な気持ちで  
お願いしたいと思います。

### ウォーミングアップ～「心理的安全性」

【遊び①】右手→左手→右足→左足の順で、数  
を数えながら 8 回振る→7 回振る→6 回振る  
……→1 回になるまでやる。

【遊び②】二人組になって向かい合い、手を一  
回たたいて横か下か上に手を出す。二人が同じ  
方向に出したら、その後で手をたたいて二人と  
も前を出す。ばらばらだったら、また手をたた  
いて思う方向に手を出す。



【遊び③】円形になって立ち、一人ずつ「リア」  
と言いながら右手を横に折って回していく。「リ  
ア、リア、リア、…」そこで誰かが「ハンド」  
と言うと、反対回りになる。もう一つ、「ホプラー」  
と入れると、次の人を一人飛ばして「リア」  
を続けていく。「ホプラー」が連続してもOK。

直井：即興演劇には失敗はつきものです。はは  
って笑ってみんなで失敗を受け入れ合う。それ

でもってやっていくことです。リアってやって  
いれば間違えないので、間違う人はチャレンジ  
ャーなのです。ここですごく大事なことがあっ  
て、誰かが失敗をしてくれると他の人たちが  
勝手に学びます。失敗は皆へのギフトなので、  
ありがとうと讃えたいと思います。

【ワーク】チーム内で間違えた人がいたら、皆  
で拍手で送り出し、他のチームに行かせる。(失  
敗した) 誰かが来たら、お祝いする。間違えた  
人はチャレンジャーとして皆で褒めたたえる。

直井：インプロワークショップでは、まずそこ  
にいる人たち同士が仲良くなる、そして失敗し  
ても大丈夫な場にしていく。ここを私たちは大  
事にしています。そういったことが今、色々な  
職場や分野で応用されて使われています。「心理  
的安全性」という言葉を聞いたことがある方が  
いらっしゃると思いますが、何かアイデアを  
出せと言われて年下の人たち、新人たちが何か  
アイデアを出せるかどうかは、若い人たちの  
能力の問題だけではなく、その組織や職場が若  
い人たちの意見を出しやすい職場であるかどう  
かという組織の問題が大きく関わると思います。

仲よし同士が何でもなあなあにして「ああ、  
いいいいよ」って言うことが心理的安全性で  
はありません。そこにいるプロフェッショナル  
が、仕事をする人間同士が、アイデアなどを  
率直に意見交換し合える、その心理的安全性を  
求めます。なので、このようなまずは楽しいゲ  
ームから入って、それぞれが、みんなが、仲良  
くなっていくことを目指します。と同時に、即  
興演劇ですので、さまざまな演劇的な、技術的  
なことを学びます。

### 絵本の読み方～七色の声を手に入れる

今日は、絵本の読み方のちょっとだけ技術的  
なお伝えしたいなと思って、プリントの  
裏面に一つ台詞を書いてまいりました。

「家に帰してほしいければ、その銀の靴をおよこし」。これは古い映画『オズの魔法使い』に出てくる悪い魔女、北の魔女の台詞です。どうぞ皆さん、その場で、その台詞をご自分なりに読んでみてください。どうぞ。

【ワーク】

自分の読み方に自信がないとか、何か一つの読み方しかできないという人もいるのですが、自分自身が持っているしゃる声の豊かさを実感し、七色の声を手に入れてほしいなと思うわけです。難しくありません。

例えば、今のその台詞をできるだけ速く、速く3回続けて読んでみてください。どうぞ。

【ワーク】

今まであまり出したことがないような声が出ています。素晴らしいです。あなたが出せる一番高い音で読んでみてください。どうぞ。

【ワーク】

出ますね。男子学生からもずいぶん高い声が出てた。女子学生も頑張りましたね。では、あなたが出せる一番低い音で読んでみてください。どうぞ。

【ワーク】

いいですね。ウィスパー、ささやき声にならないで、できるだけ小さな声で読んでみてください。どうぞ。

【ワーク】

あなたが出せる一番大きな声でどうぞ。

【ワーク】

今まで出したことないかもしれない声があると嬉しいです。

それでは、「家に帰してほしいければ、その」と「銀」の間に間（ま）をいっぱい空けて読んでみてください。

【ワーク】

ありがとうございます。赤でも黄色でもなくて、金色でもないんです。大事なのは「銀」なんです。「銀色の靴」がどうしても欲しい。そう

いった大事な言葉の前にいっぱい間を開けて、その後に銀の靴を思い浮かべながら読んでみてください。どうぞ。

【ワーク】

そうすると、大事にしたい言葉がとても立ちます。「家」を思い浮かべ、「家に帰してほしい」ことを思い、「銀の靴」を思い浮かべ、「銀の靴をおよこし」ってどういうことなのかを思い浮かべる。そうしながら読んでみてください。

【ワーク】

最後に音色を変えてみます。例えば、ロボットみたいな読み方ができますか。どうぞ。

【ワーク】

クレヨンしんちゃんみたいに読んでください。

【ワーク】

じゃあ、エリザベス女王のように。

【ワーク】

なんか、こんなふうに着て座って座って、ヤンキー姉ちゃんみたいにして読んでみてください。

【ワーク】



今たくさん声を出していただきました。いかがでしたでしょうか。幼稚園や保育園には、おそらく500ではきかないくらい多くの絵本があると思います。実習生や新人の保育者がそのすべてに目を通すのは無理ですが、今日やったことを思い出して、ここはちょっと声を低く、ここは速く、ここはゆっくり読んでみようかなぐらいの余裕を持ちながら、何よりも子ども達の顔を見ながら読んでもらえたら嬉しく思います。

## 「ステータス」を変える

(全員が立ちあがり、「誰かの目を見たら離さず、頭を動かさず、外開きな感じ」のグループと、「自分を触るのが大好き、誰かの目を見たらすぐに目をそらす内開き」のグループに分かれ、これらが交じり合う場面)

直井：ここはある企業のパーティ会場です。皆さんは色々なおもちゃメーカーから来ていて、おもちゃの新作発表会後のレセプションパーティです。色々な情報交換をここにいる人たちと、近くにいる人たちとしてください。先ほど指定した外開きタイプと内向き（内開き）タイプの行動をしながら色々な人と話してみてください。

### 【ワーク】

直井：ありがとうございます。一度元の場所に戻りましょう。



こちらにいた皆さん、今度は逆になります。今度は外開きで誰かの目を見たらロックオン。何か訊かれたら、間を開けて自分のことを喋ってください。

こちらの皆さん、ちょっと内向きになります。自分のこと触るのが大好きです。誰かに何か訊かれたら、間を空けず即、答えてください。

またおもちゃ会社のレセプションパーティです。また色々な人と話してください。どうぞ。

### 【ワーク】

(ワークが終わり、全員が座る。)

今やっていたいただいたのを「ステータス」と呼んでいます。演劇界で、即興演劇の世界で、このステータスをとても大事にしています。お客さんはステータスチェンジが大好きです。シェイクスピアの『リア王』という話があります。たくさんの土地を支配し、ステータスの高いリア王は、頭は動かさない、人のこと触るのが大好き、一呼吸おいてから喋る。しかし、だんだん三人の娘と婿たちに貶められ、どんどんステータスが下がり落ちぶれていく。お客さんはそういうのを見るのが大好きなわけです。他に、『ピーターパン』のフック船長。ステータス高いですが、ワニに手を食われたくないとか言って、「やめてくれ〜」みたいな感じでだんだんステータスが下がっていくのをご存じですね。

人間は普通に生活をしていて、ステータスのことをすごく気にしながら生きています。さきほどやった外開きと内開きのステータスのどちらがやりやすかったですか。

私は実はものすごくステータス低くいく方なんです。「大丈夫ですよ〜、皆さん、私は怖いことをしませんからね。私と仲良くしましょうね。」って。ワークショップが保育園でも、大学生とでも、先生方とでも、私は低くいく方だと思います。

例えば、インパラみたいな細い草食動物がライオンみたいな肉食動物と出会ったときに、同じことが起きるんだそうです。ライオンとかヒョウは、自分と向き合ったときに自分から目をそらした動物のことを餌だと思うんだそうです。そのぐらい、私たち動物の間でも、サル山とかに行くと分かりますが、ステータスの差があってみんな生きています。

「先生」と呼ばれる職業の人は、一人の先生の中で、高いステータス、低いステータスの上げ下げができるようになってほしいと思います。

私が9年間、保育士をしていたころは、ステータスの低い感じの保育士で、「いやあ、みんな楽しいね～」みたいな感じでやってたと思います。でも、男の子たちがみんな結構高い滑り台のてっぺんから飛び降り大会をし始めて、一人が「イテテテ」とか言って、私はこれで首だと思った瞬間がありました。やっぱりそういうときは、ステータスを上げて、「そんなに危ないことは絶対にしちゃいけないんだ。」と教えることが大事になってくるわけです。でも、そこで泣いているお子さんがいたら、ステータスも体そのものも下げて話しかけてあげるわけです。

普段からステータスの高い人はいます。保育学生はピアノの能力、本を読む能力、指導案を書く力でそんなに差はないのですが、どうしてだかご指導くださる先生とうまくいかない学生がおります。もしかしたら、ステータスの高い指導者とやはりステータスの高い学生がぶつかっているんじゃないかと思うときがあります。

家の中でお姉さんとお母さんがぶつかっている一番下のお子さんとかいたりしませんか。同じステータス同士はぶつかるので、ステータスが低い同士も、低い方、低い方に行こうとしてここも実はぶつかっているんです。介護職の方たちのワークショップでも、利用者さんと介護士の相性の悪さがステータスの高い者同士のぶつかりあいだったのではないかという意見を聞いたことがあります。

演劇界でも大事にしているこのステータス、日常生活の中でも、皆さん自身が一人の人間の中で使い分けることができると、面白いかなと思っています。

### 劇あそび

(会場の前方を舞台にし、それと向かいに半円形の客席を作る。空いた空間で3~5人の組になり、さらに2~3組が合体してチームを作る。)

直井：では、富山国際大学のこのキャンパスを造ってみてください。外部の先生方は難しいかもしれませんが、学生からいろいろ聞いてください。

#### 【ワーク】

オッケー、オッケー。ちょっと一回休んでください。

(1チームに向けて)

直井：縦長の校舎にチャレンジしていましたね。てっぺんに上ろうとした人は誰？てっぺんから何が見えますか。

学生1：恥ずかしさ。

直井：それは役者としての心情ですね。建物のてっぺんの窓からは何が見えますか。

学生1：学生のフレッシュな笑顔が見えます。

直井：ありがとうございます。

(他のチームに向けて)

直井：一番下のこの階には何があるんですか。

学生2：玄関

直井：もう授業が始まって5分ぐらいで、どんな人が走り抜けるんですか。

学生2：寝すぎた。

直井：寝すぎた人がね。きのうサッカーとか見まくったのかもしれないね。ありがとうございます。

(他のチームに向けて)

直井：ここには何があるんですか。

学生3：食堂。

直井：食堂はどんなお食事が出るんですか。

学生3：ラーメンとか。

直井：何が一番人気なんですか。

学生3：カツカレー。

直井：カツカレー。ありがとうございました。

(他のチームに向けて)

直井：ここは何ですか。

学生4：学生役です。

直井：建物に守られている学生さんたちね。ここは？

学生4：建物です。

直井：建物。ありがとうございます。最高です。では皆さん、一度お座りください。

ちょっとだけお話をさせてください。小学校の先生を目指されている方にも、保育者になる方にも「劇あそび」を紹介したいと思います。授業で使える演劇手法というのがあるからです。

### 「ごんぎつね」～ごんのいる村の風景

直井：小学校のほとんどの国語の教科書に出ている『ごんぎつね』を持ってまいりました。このごんぎつねでもって演劇的なことを授業でやったな、という人、どのぐらいいますか。あんまりいないか。すごく有名な授業の仕方としては、最後に「ごん、お前だったのか」と言う兵十の有名な台詞があります。その台詞をどういうふうに言ってみるのかとか、あの後の続きを考えてみるとか、先生方はとても工夫してあの作品を取り扱っていらっしゃるんです。

簡単にお話しますね。ある村に「ごん」という子ギツネがいました。ごんは遊ぶのが大好きで、お米が実って稲を刈った後に組んで干してあるところにダイブしてぐちゃぐちゃにしたり、人間が魚やウナギを捕るために川に仕掛けた網をかぶってしまい、魚やウナギを逃してしまったり。ごんはただ遊ぶのが楽しくて遊んでいるわけです。そんなある日、ごんは憧れている漁師の兵十の家に行ってみると、兵十のお母さんの葬式をやっていました。兵十は、川の網がやられたので最後にウナギを食べさせてやれなかったことを悔やんで泣いていました。そこで、ごんは、魚屋からイワシをかごいっぱい盗んで、兵十の家の前に置きました。これに怒ったのが魚屋でした。兵十は、お母さんは死んじゃうわ、魚屋になぐられるわで、「もうなんだよ、全然いいことないじゃないか」と怒っているわけです。

### \*演劇手法1 静止画 (Freeze Frame)

直井：はい、そこで皆さん、もう一度立ち上がって10人、20人ぐらいのチームになって、ごんがいる村を造ってみてください。

【ワーク】

### \*演劇手法2 思考の軌跡 (Thought Tracking)

(できあがった村について個別のチームに質問)



直井：ここは何ですか。

学生A：川です。

直井：川ですか。あなたは？

学生B：橋です。

直井：橋ね。

学生C：川にいる生物。

直井：こないださ、ごん、来ませんでした？北でしょう？

学生C：はい。

直井：で、なんか、網、ば一ってやっちゃったんだって？

学生C：はい。

直井：そのときどうしてたの？

学生C：つかまって逃げられたんで、うれしかったです。

直井：あ、よかったね。そうですか。逃げられたんだ。ここは？

学生D：川べりの木です。

直井：いいですね。すごく豊かな川に見える。

あれ、ここは？誰んちですか。

学生E：兵十とか村の人たち。

直井：兵十とか村の人たち。

学生F：魚屋さんです。



直井：魚屋さん、なんか大変だったね。どうでした？

学生 F：この野郎と思いました。

直井：この野郎と思いました。そうだよ、そうだよね。ここは？

学生 G：狭っこい家です。

直井：誰んち？

学生 G：村人です。

直井：村人の家。ここは？

学生 H：川です。

直井：川ね、あそこからつながっているのね。ここは？

学生 I：山です。

直井：山。山のとっぺんから何が見えますか。

学生 I：村人たちが毎日楽しそうに過ごしているのが見えます。

直井：いい村ですね。ありがとう。

(他の1チームにも質問した後で)

直井：兵十と魚屋とごんが暮らす山々や村を造っていただきました。

### 「ごんぎつね」～ごんに訊いてみる

#### \*演劇手法3 質問コーナー (Hot Sheeting)

直井：さて、ゲストをひとりお呼びしていますので、少しお待ちください。

(ゴン役となって直井先生再登場)

直井(ごん)：ごんです。直井先生に、今日は富山国際大学のお兄さんやお姉さんや近所の先生たちとこ行って、いっぱい質問に答えて来なさいって言われました。何でも答えます。何でも訊いて。どうぞ、はい。

学生 a：ごんは兵十に撃たれたとき、どんなふうに思いましたか。

直井(ごん)：まだ撃たれてないんだ。これからだと思っただけ。でもね、でもね。兵十がなんか格好いいやつ、あれ毎日磨いてんの。あれ、格好いいって思ってる。

学生 a：ありがとう。

直井(ごん)：ありがとう。あとは？はい。

学生 b：ごんはどうしていたずらが好きなんですか。

直井(ごん)：いたずらって何？

学生 b：村人を馬鹿にしたり、畑を荒らしたり。

直井(ごん)：荒らしてるの？遊んでるんだよ。すっごいこんな金色のさ、こんななんか、もう飛び込んでくれ、みたいになってるわけ。だからあそこにダーって飛び込んで、お一つとつと、こんな感じで飛び込むの、大好き。いたずら？いたずらなんかしてないよ。お魚さんたちが川で網に引っかかって「ええー、助けて、ごん」って言うてるから助けたんだよ。さっき、あつちの川の魚にありがとうって言われちゃった。いい質問ありがとう。何でも訊いて。はい。



学生 c：好きな食べ物は何ですか。

直井(ごん)：きのこ。きのこきのこ。全部、色、違うんだよ。大きさも。全部マッシュルームって言うんだけどさ。きのこきのこきのこどんぐり。あとは？はい。

学生 d：ごんは兵十のこと、どう思っているの？

直井(ごん)：なんかね、格好いいんだよ。兵十、格好いいって思ってる。あとは？はい。

学生 e：友だちはいる？

直井(ごん)：魚さんとは仲良くなったね。でも友だちはあんまりいないかな。お母さんもね、ある日突然、帰って来なくなった。あったかかったのに、お母さんと一緒に寝てるときは、なんか分かんない。帰って来なくなっちゃったから、結構一人かな。ありがとう。どうぞ。

学生 f : どこに住んでるの？

直井 (ごん) : だから、山の、洞窟って言うの？  
下に葉っぱとか敷いた。で、寝られるんだ。あ  
りがとう、すごい疑問に思ってくれたんだね。  
嬉しいよ。あとは？いいかな？ どうぞ。

学生 g : 道はどうやって来たの？

直井 (ごん) : 歩いてきた。うん、なんか、結構、  
ワーツとかって指さされたけど、大丈夫だった  
よ。

学生 g : 人は怖くないんですか。

直井 (ごん) : 人？怖くない。大丈夫。

学生 g : この中に格好いい人はいますか。

直井 (ごん) : ふふん、いいじゃん、みんな。あ  
とは？

学生 h : 兵十が泣いてたけど、どう思ったの？

直井 (ごん) : なんか、嫌だった。だから、魚の  
こと言ってたから、魚渡したら、なんかもっと  
大変そうで、びっくりした。じゃあ、ごんは汗  
かいた。山に帰ります。ばいばい。(ごん、退場)

### 「ごんぎつね」～有識者に意見を求める

直井 : というわけで、ごんに来ていただきました。  
それでは、どなたか4人の方にお手伝い  
いただきたいと思います。

(4人が出揃ったので村長役の直井先生登場)

#### \*演劇手法 4 専門家のマント

(Mantle of the Expert)

#### \*演劇手法 5 ティーチャーインロール

(Teacher in Role)



直井 (村長) : 村民の皆さま、村長の村松でござ  
います。ごんには大変困っておりまして、本日

は有識者の先生方にお集まりいただきまして、  
ごんをこの後どうすればよいのか、駆除するべ  
きかそれとも、というところを伺っていきたく  
と思います。

まずは、こちらの先生、動物生態学の先生で  
いらっしゃいます。本日はどうも有難うござい  
ます。きつねというものは、こんなにいたずら  
をしまくるものなんでしょうか。

学生(1) (動物生態学者) : いやあ、ごんにも考え  
があつてのことだと思いますがね、私は、はい。

直井 (村長) : キツネっていうものは、普段、遊  
びなんでしょうかね、私たちにはいたずらとし  
か思えないんですよ、あの行動が。

学生(1) (動物生態学者) : どうなんですかね。た  
だ、母ギツネが人間に駆除されてしまったら、  
子ギツネが生きていくためにはやっぱり物を盗  
らないといけなかったりというのはあるのかと  
思います。

直井 (村長) : 貴重なご意見ありがとうございます。  
次に発達心理学の先生をお呼びしました。  
子どもということですね。先生、どういうふう  
に扱っていけばいいんでしょうか。

学生(2) (発達心理学者) : やはりキツネとはいえ  
幼い子どもというものでありまして、大人から  
見る子どもという、やはりちょっといたずら  
をしているというか。故意に悪いことをして  
いるようにも見えるけれど、子どもの視点に立  
った時にそれが本当にいたずらなのか。よかれ  
と思ってやっとなるかもしれんし、楽しいと思  
ってやっとなるかもしれん。そこは本人にしか分  
からないところがあるので、もうちょっと歩み  
寄る必要があるんじゃないかと思ひますね。

直井 (村長) : 本当に、貴重なご意見ありがとう  
ございます。次にご紹介するのは、経済学の先  
生の助手の方で、博士課程の学生さんです。村  
の経済を考えたときに、どのようなご意見をお  
持ちですか。

## 「東黒牧キャンパスの森づくりによる自然環境を活かした教育・保育の展開」

2022（令和4）年9月14日（水） 10:00～11:00



会場：呉羽キャンパス E館2階小児保健実習室

報告者：宮田徹・石倉卓子・本江理子

今回報告するのは、令和3年度学長裁量経費（募集領域4：改革推進費）対象課題として採択された「東黒牧キャンパスの森づくりによる自然環境を活かした教育・保育の展開」活動です。この取り組みは、富山国際大学有志教職員・学生、社会福祉法人富山国際学園福祉会職員と福祉会が運営するにながわ保育園及び西田地方保育園の保護者・園児からなる「TUINS・TKF 協働森づくりチーム」によるもので、報告者たちもそのメンバーとして活動してきました。

### 1 はじめに –社会福祉法人富山国際学園福祉会の設立とその背景–

学校法人富山国際学園を母体とする社会福祉法人富山国際学園福祉会は2004年6月、富山市立保育所の民営化を引き受けるために設立され、2005年からにながわ保育園（定員185名）、2020年から西田地方保育園（定員235名）を運営しています。これは保育実践現場との緊密な連携のもとに、質の高い保育者養成教育及び保育・幼児教育研究を推進することをめざすもので、2000年頃からの富山短大中長期将来構想の検討から生まれたものです。学園の21世紀を見据えたこの将来構想には、保育・福祉分野の4年制大学（学部）の設置をめざすことも描かれており、これがその後の2009年富山国際大学子ども育成学部創設に結実しています。

<p>社会福祉法人 富山国際学園福祉会</p> <p>2004（平成16）年6月法人設立</p> <p>にながわ保育園（定員185名） 2005（平成17）年4月開園</p> <p>西田地方保育園（定員235名） 2020（令和2）年4月開園</p>	 
---	--

### 2 質の高い保育者養成をめざして –教育・研究・実践の三位一体の取組–

計画段階から、社会福祉法人を設立して保育所を運営する意義については、「教育・研究・実践の三位一体の取組」によって、より一層質の高い保育者養成を実現し、そのことを通して地域社会の発展に貢献するという学園の使命を果たすのだと説明されていました。

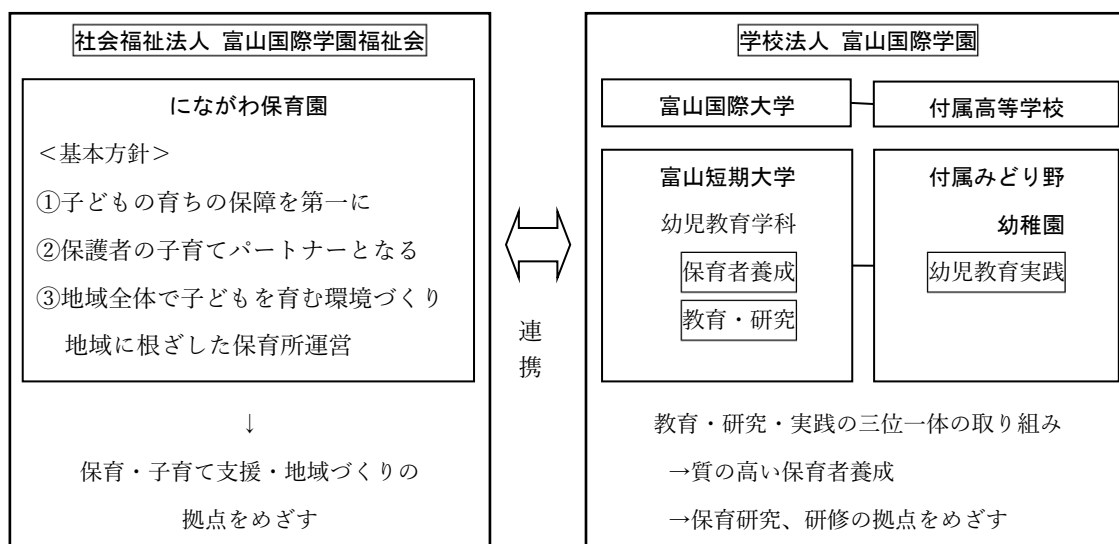


図 社会福祉法人富山国際学園福祉と学校法人富山国際学園の連携  
(富山短期大学幼児教育学科(2005)機関紙「越の子 No.51」より)

質の高い保育者養成のためには、養成校教員が現場をよく知り、現場の実情を踏まえた教育を実践することや保育現場との共同研究が必要です。富山短大はすでにある付属みどり野幼稚園に加えて、少子化を背景により一層重要性が高まる保育・子育て支援の実践現場と密接に連携することが可能になりました。このころから、養成校と実践現場との協働による養成教育は時代のキーワードにもなっていました。(全国保育士養成協議会(2005)「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅲ～保育実習指導のミニマムスタンダード～」など)

その後、2009年、教育と福祉の融合(ハイブリッド)を掲げる富山国際大学子ども育成学部の設立を経て、学園と福祉会の一体的な運営が目指されてきました。

そして、2018年、福祉会にとっては念願であった2園めとなる富山市立西田地方保育所の移管決定を報告する学園報 No.43には次のように述べられています。

「保育・教育・福祉に関する高度な教育・研究機能をもつ富山国際大学・富山短期大学と緊密に連携しながら、質の高い保育・幼児教育、地域の子ども家庭福祉の向上並びに共に支え合い育ち合う地域共生社会の構築に寄与したいと考えています。

学園にとっては、とりわけ富山国際大学子ども育成学部や富山短期大学幼児教育学科において、みどり野幼稚園、にながわ保育園に加えて、学生・教員双方が保育や子ども・保護者・地域社会の現状について、体験的・実践的に深く学ぶ場を得ることとなり、より一層質の高い保育者養成や保育・幼児教育並びに子ども家庭福祉研究につながるものと期待されます。」

さて、学園と福祉会の連携・協力は、大学・短大教員による園児・保護者を対象とする公開講座や園内研修講師、様々な園活動への学生ボランティア参加など活発に行われるようになってきましたが、次のような課題も見えてきました。

- ・教育研究活動における連携・協力が特定の学部・学科に限定された一部の教員による部分的な活動にとどまりがちで、学園グループ全体の組織的な取り組みとは言い難いこと。
- ・学生のボランティア活動が散発的で体験に基づく学びも断片的なものにとどまり、保育・教育・福祉の専門職をめざす者として成長していく連続的な学びになり難いこと。

このようなとき、2020年の開園当初からコロナ禍により様々な制約・制限を受ける中、質の高い保育実践を行おうと模索していた西田地方保育園から、富山国際大学に対して、東黒牧キャンパス内の森を活用した教育・保育の展開を図りたいと、森の使用許可依頼があり、大学も里山の整備にも資する取り組みとして全面的に協力することとなったのです。

大学内関係者による検討の結果、担当部署だけの限られた活動ではなく、多くの教員・職員や学生たちを巻き込んだ取り組みとなるように、まずは学長裁量経費を活用してスタートすることとなりました。

### 3 東黒牧キャンパスを活用した「森づくり」活動

「東黒牧の森づくり」プロジェクト	
• 【大学】	• キャンパス内森の整備（「健全な里山」の維持）
• 【福祉会】	• 自然環境を活かした教育・保育の展開
• 大学・福祉会の協働プロジェクト	• 2021（令和3）年度学長裁量経費に採択
• 2022年度以降も継続実施	

以下、令和3年度学長裁量経費の申請時の計画書及び実績報告時の研究成果報告書から抜粋して、この取り組みについて紹介します。

#### ・活動の目的と必要性

本学は、自然豊かな東黒牧キャンパスと呉羽丘陵西麓の平野に位置する呉羽キャンパスに分かれている。特に自然豊かな東黒牧キャンパスの周辺部の森は、広葉樹を中心とする自然林（1・2号館裏）と、スギを中心とした人工林とコナラ、栗木等（グラウンド裏）からなっており、子どもたちにとって自然を学ぶことのできる格好の場所である。これを利用して本学園グループの社会福祉法人富山国際学園福祉会（以下「福祉会」という）が運営する保育園の園児は、ここ数年間、東黒牧に通って自然に触れあう活動も行っている。

一方、従来から東黒牧キャンパスの森整備に携わってきた北野名誉教授が死去され、また民間企業とのコラボによる森づくりも契約期限が切れたことにより森の整備が十分に行き届かず、現在キャンパス周辺は下草などが繁茂した「荒れた森」となりつつある。それにより、従来からここを自然教育の場として利用してきた福祉会の園児たちにとって、安心して活動する森が消失するという状況が発生してきた。今年度に入ってから、保育園の職員自らによって一部の森の下草刈りが実施されるなどの状況になっている。

大学の重要な資源であるキャンパスの森を「整備の行き届いた里山」として維持することは大学の使命でもあり責任でもありと考えられる。また、福祉会の園児たちへの安心・安全な遊びと活動の場を提供することは学園の重要なサービスでもある。さらには、昨年から大学キャンパス内への猿や猪などの出没回数が増えていることも、森の整備が不十分であることに関連があると考えられ、キャンパス周辺の森の整備は喫緊の必要性を抱えていると言える。

## ・活動の内容

この状況を早急に解消するために、本学有志によってキャンパス周辺の森の整備を実施したいと考えている。  
具体的な活動内容は次のとおりである。

1. 森の整備：下草刈り及び大小の枝の伐採（年間に2～3回程度の森林清掃・整備活動）
2. 樹木の手入れ：幼木の伐倒、間伐など（年に1回程度）
3. 森の広場（遊び場）の設置：アスレチック等の固定遊具の設置や、あずまや（休憩所）、テーブルセットなどの設置

活動は、本学教職員及び学生を中心に、にながわ保育園・西田地方保育園2園の園児及び保護者、福祉会職員の合同チームによって実施する予定である。

## ・期待される効果

大学の資源であるキャンパス内の森を、責任をもって保守する事は当然の義務であることは言うまでもない。またこれによって「健全な里山」を維持し、野生動物と集落との境界を明らかにし、里山としての機能を取り戻すとともに、子どもたちが自然と触れあう機会を確保するための場の提供、また学生のESDやSDGs教育への教材提供としても多大な効果が期待できる。

1. キャンパスの森を整備された里山として維持し、害獣の出没抑制、森林の恵み（山菜など）の復活、栽培中の無花粉スギ幼木の保育など、様々な「里山の機能」の回復
2. 保育園による森づくり及び遊び場づくりの親子活動を通して、子どもたちが自然に親しみながらの親子のコミュニケーションの促進
3. 本学教職員・学生と、園児やその保護者、福祉会職員による森づくりの共同活動を通して、現代社会の課題に向き合い、「持続可能な社会」を考えるESD教育の推進
4. 学生や職員による手作り遊具の設置を通して、想像力と人と関わる力を養うとともに、設置周辺の森林等に関する知識と理解の深化
5. 学園グループが保有する資産を活用して、自然豊かな東黒牧キャンパスにおいて、園児や福祉会職員と本学教職員及び学生が交流・協働することによる連帯感の醸成

## ・成果の概要及び今後の活用等

細かい活動日程などは省略しますが、学長裁量経費と福祉会予算を使って、森を整備するための草刈り機やチェーンソー、高台づくりの資材等を購入し、福祉会の職員とともに、大学教職員有志やボート部や野球部、環境サークルの学生たちが協力して、森づくり作業を行いました。

### ■2021年8月5,6日森づくり作業（写真）



■2021年8月20日下草狩り、園職員、本学学生・教職員協働の高台資材運搬・設置（写真）



令和3年度の実績報告書は、「今後も、福祉会の園児たちが楽しく活動できるよう、また健全な里山づくりに本学教職員が主体的に、持続的に活動できるように毎年計画を立てていく。」と結ばれています。

以後、この東黒牧キャンパスの森には、にながわ保育園及び西田地方保育園の園児たちが園外保育で年に何回も訪れています。その意義について、西田地方保育園のパンフレットには、次のように記載されています。

「子どもたちは森の中で、様々な動植物や風や光、雨など自然を感じて、自然に働きかけて、ドキドキ、ワクワクやなんだろう？ どうしてだろう？ と心を動かします。こうした『センス・オブ・ワンダー』を、友達や先生、大学生のお兄さん、お姉さんなど、多様な他者とともに、存分に体験することが、子どもの『心』（認知能力も非認知能力も含めて）を育てるのだと思います。」

こうした子どもたちの様子は両園のホームページに掲載されています。以下、いくつかを紹介します。

## 2021年、森づくりプロジェクト始動。





この「森づくり」プロジェクトが、教職員だけでなく、学生や園児・保護者も含めた学園と福祉社会の連携・協働による組織的な活動として、今後も継続・発展することを願っています。



■2021年8月20日下草狩り、園職員、本学学生・教職員協働の高台資材運搬・設置（写真）



令和3年度の実績報告書は、「今後も、福祉会の園児たちが楽しく活動できるよう、また健全な里山づくりに本学教職員が主体的に、持続的に活動できるように毎年計画を立てていく。」と結ばれています。

以後、この東黒牧キャンパスの森には、にながわ保育園及び西田地方保育園の園児たちが園外保育で年に何回も訪れています。その意義について、西田地方保育園のパンフレットには、次のように記載されています。

「子どもたちは森の中で、様々な動植物や風や光、雨など自然を感じて、自然に働きかけて、ドキドキ、ワクワクやなんだろう？ どうしてだろう？ と心を動かします。こうした「センス・オブ・ワンダー」を、友達や先生、大学生のお兄さん、お姉さんなど、多様な他者とともに、存分に体験することが、子どもの「心」（認知能力も非認知能力も含めて）を育てるのだと思います。」

こうした子どもたちの様子は両園のホームページに掲載されています。以下、いくつかを紹介します。

## 2021年、森づくりプロジェクト始動。





この「森づくり」プロジェクトが、教職員だけでなく、学生や園児・保護者も含めた学園と福祉会の連携・協働による組織的な活動として、今後も継続・発展することを願っています。

## “モノ”づくりと“者”づくりの融合をめざして

父親の病気を機に、早稲田大学を退職し、富山に戻ってから28年が経過しようとしている。その間、自宅所有地に障がい者福祉施設を開所するとともに、富山医科薬科大学に籍を置きながら研究を行ってきた。そして、本学に着任し14年。今回は、進取(新種?)の精神のもとに、私がこれまで、新たなもの(モノ/者)づくりにこだわりながら、地域で取り組んできた実践、そして研究について、話題提供を行ったものを以下に紹介する。

### はじめに -あん・ぼん・たん問題-

薬の富山として、江戸時代からその名を轟かせ、現在の売薬さんの原点ともなった「反魂丹(はんごんたん)」。

しかし、今、少子高齢化、2025年問題、8050問題、孤立・孤独死、そしてDVや虐待の増加等、社会を取り巻く問題に対する特效薬はなかなか見つからないのが現状である。子どもたちに目を向けてみても、いじめ、不登校、虐待、発達障害、貧困、ひきこもり、ヤングケアラー、反社会的行動、リストカット、さらには、スマホ依存、インターネットゲーム障害(ゲーム症)をはじめ、メンタルヘルスの不調・苦痛から逃れたいとの思いから、市販薬の大量摂取を繰り返して依存症に陥る若者の増加も社会問題となっている。

私は、上記に挙げた問題を総称して、「あん・ぼん・たん問題」としている。「あん」は、「安心、安全」を脅かしている問題、「ぼん」は、なかなか「本音、本心、本当のこと」が言えなくなっている希薄な人間関係等から生じる問題、「たん」は、「単純、簡単、短期」には解決することができないほど、複雑化、複合的になっている問題、である。そこで、これらの問題が長期化、深刻化しないためにも、どんなもの(モノ・者)づくりをすればよいのか、私が取り組む研究の原動力となっている。

### 1. モノづくりと者づくり

#### -「おわらの里」での福祉実践・研究編-

1997(平成9)年、富山市八尾町において、いや県内において初となる新たな障がい者の就労支援を行う施設を開所した。

具体的には、①障がいの種別や程度を問わず、利用を望む方であれば、誰でも受け入れ、働く場を確保すること、②一人ひとりの能力を生かしながら、富山・八尾という地域に根ざした和紙文化、そして「おわら風の盆」をモチーフとする郷土芸能あふれる商品を多岐にわたって創り出すこと、③福祉的就労の範囲に留まることなく、一人でも多くの方が一般就労に向け、当たり前の希望を持てるようにすること、④喫茶店のように気軽に立ち寄ってもらえる職場および環境を地域の中で整備し、展開していくこと、⑤作品や有機野菜づくり、販売を通じて、地域の方に、福祉への関心・理解を深めてもらい、自然に交流できる土壌を開拓すること、であった。



障がい者の就労支援に八尾という地の利を生かしたものづくりの原点となった「おわら風の盆」



「おわら風の盆」と八尾和紙をモチーフに制作  
(日本観光連盟会長賞(2001)等を受賞した商品)

このように、観光土産づくりという、「もの(モノ)づくり」を通じて、障がい者も住民の一人として、八尾のまちづくりに貢献できる、まちづくりをリードできるという、「もの(者)づくり」の両方の観点から福祉臨床実践が展開できる取り組みであると考えた。

そして、この活動を行っていくことこそ、ノーマライゼーションを具現化することにつながり、目指すべき「地域共生社会」を構築していくことになっていくのではないかと考えた。

また、障害者という用語表記についても、「害」の漢字イメージに着目し、調査研究を実施した結果、一定のエビデンスが得られたことで、旧八尾町(現富山市)の広報誌では、「障害者」表記を県内自治体では初めて、「障がい者」と改めて、表記されることとなった。



2002年8月26日 北日本新聞掲載

そして、この調査研究の結果については、原著論文(村上満ほか(2013),「障害者」と「障がい者」の表記イメージに関する研究、「医学と生物学」,第157巻,第6-3号,pp.1356-1360,(財)緒方医学科学研究所)として、学術雑誌に掲載された。

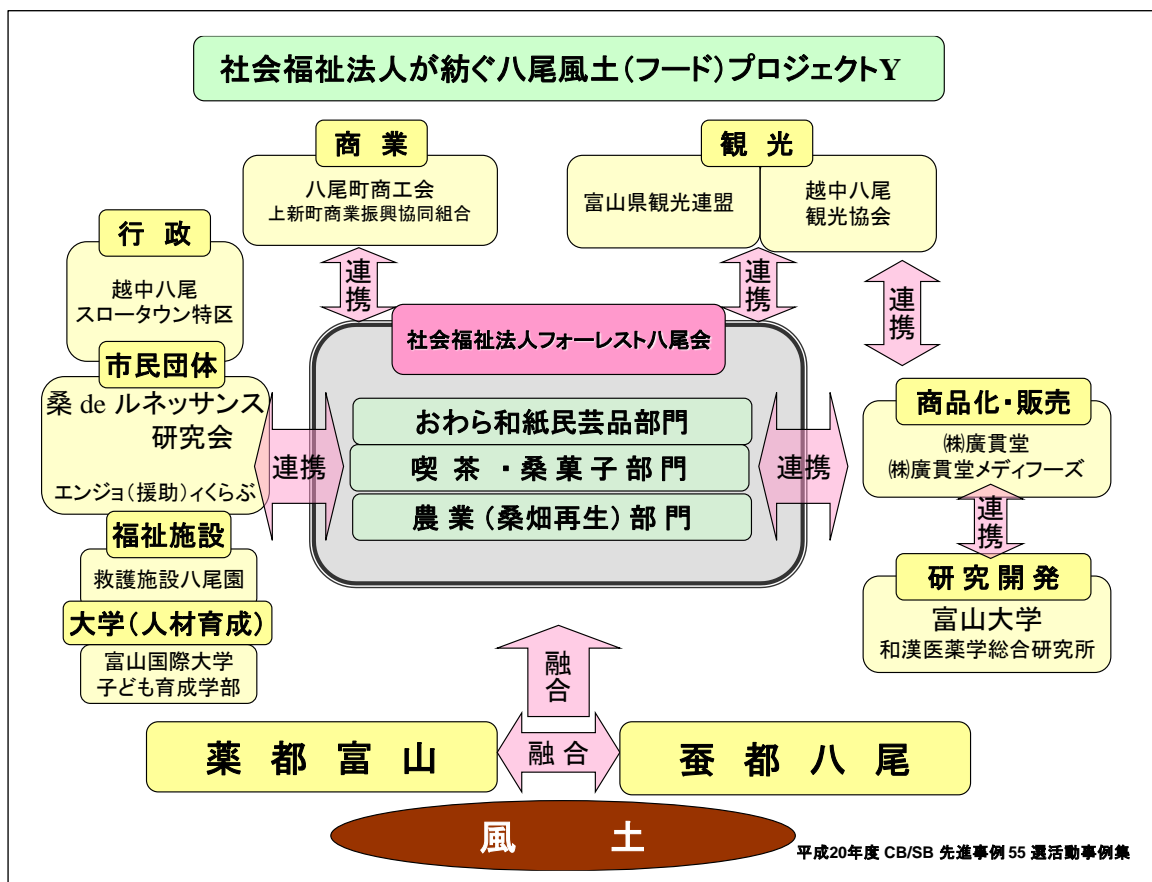
さらには、八尾がかつて、養蚕業で栄えた地であったことに注目し、地域の賑わいを取り戻し、地域をリハビリするという視点から、桑畑再生の事業を展開した。越中八尾観光協会、製菓会社の広貴堂と協働して桑の葉を活かしたお茶の特産品開発を行う等、ゆっくり進化させながら、着実にものづくりを展開させているところである。



開発したおわら桑摘み茶

桑畑再生を行うことは、放棄田の利活用ともなり、そこから新たに生み出すお茶は、地産地消で極めて健康志向の高い商品となった。何よりも、社会福祉法人が観光協会や商工会、そして製菓会社を先導し、協働しながらの一連のものづくりのプロセスは、これまでの我が国では見られなかった動きであり、農福商工連携事業の先駆けでもあった。

そして、ペットボトルのお茶を購入し、飲んでもらうことによって、収益金の一部が、おわら風の盆行事や桑畑再生事業に寄付される仕組みを構築、観光客も応援団の一人であり、貴重な社会資源として役割を担っているとした。この一連の取り組みは、経済産業省の「平成20年度コミュニティビジネス(CB)/ソーシャルビジネス(SB)先進事例55選」に選定され、全国のモデルとなった。



経済産業省のコミュニティビジネス・ソーシャルビジネスのモデルとして紹介された事業スキーム

## 2. モノづくりと者づくり

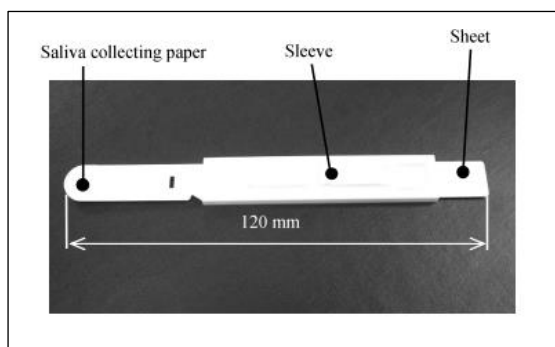
### －富山医科薬科大学での実践研究編－

元々臨床心理学(行動療法研究室)を専攻し、心理職として大学で学生相談業務を行っていた私は、富山に戻った後も、福祉施設を運営しながら、これまでの経験を生かすべく、県教育委員会のスクールカウンセラーとして週の数時間を小中学校で過ごすことを希望し、引き続き、学校臨床を研究のフィールドワークとして継続することに重きを置いた。

言うまでもなく、学校現場では、いじめをはじめ、不登校や引きこもり等、様々な問題が生じており、わが国の社会問題となっている。そして、これらの問題を解明するべく、これまで、思春期における心身の変化、友

人関係、勉強、部活動等、学校生活全般にわたる質問紙調査を実施したり、ストレス測定尺度等の開発等を行ったりと、子どものストレス要因の抽出や指標の検討等、心理学的アプローチからの評価が用いられてきた。

そこで私は、子どものストレス評価に関してこれまでの研究にはない、新たな手法、すなわち簡便・非侵襲的に採取できるバイオマーカーとして、唾液に着目した。唾液であれば、いつでも、どこでも、誰もが採取できるユニバーサルな客観的ストレス指標として活用できると考え、(株)ニプロとのもの(モノ)づくり共同研究を始めるとともに、唾液アミラーゼに着目した実践研究「富山 唾液スタディ」を実施し、県内の中学校で研究を行った。



(株)ニプロと共同開発した唾液アミラーゼモニター  
(医療機器届出番号: 27B1X00045000110)

この研究により、唾液バイオマーカーを用いれば、特段の問題がない「見かけ上の健康者」を、うつ病等、重篤な精神状態に陥る前にスクリーニングすることが可能であることが示唆された。そして今後は、データベース化等を図ることによって、唾液バイオマーカーが学校生活における子どもの健康観察の一指標として適用され、不登校予防にも応用できるのではないかと考えられた。

まさに唾液は、児童生徒のストレスを語ってくれるものさし(モノ)になりうるだけでなく、児童生徒(者)を救うことにもなるという新たなものづくりを狙った研究となった。

一連の研究成果については、原著論文(村上満ほか(2009)、「唾液アミラーゼ活性は中学生の心身ストレスの指標になり得るか」、『生体医工学』, 47(2), 161-171, 日本生体医工学会)として、学術雑誌に掲載された。

### 3. モノづくりと者づくり

#### ー地域(黒部市)の福祉実践・研究編ー

本学に着任して14年が経過した。その間研究代表者として、文科省科研費による研究を行ったものには、「スクールソーシャルワーカーの学校現場の定着に向けた総合支援カルテの開発(基盤研究(C)課題番号24530746:平成24年度~平成27年度)」や「保育ソーシャルワーカー導入に向けた養成支援システム構築に関する実証研究(挑戦的萌芽研究 課題番号(15K13099):平成27年度~平成29年度)」があるが、どちらにも共通する点は、スクールソーシャルワーカーや保育ソーシャルワーカーという新たな人材(者)づくりに焦点を当てたものであり、その人材を生かしていくための我が国初のシステム(モノ)づくりという点にある。

同様の観点で現在、本格的な研究申請に向けて、社会実証実験中のものを紹介する。

具体的には、本学と包括連携協定を締結する自治体の1つである黒部市に焦点を当て、地域福祉分野におけるICT利活用に関する研究を黒部市社会福祉協議会と行った。



黒部市社会福祉協議会、(株)日新システムズと協働で開発した「くろベネットボタン(仮称)」のツール一式

すなわち、「受け手」や「支え手」という関係を超えた地域共生社会が叫ばれる中、ツール(上写真)を活用して、誰もが助けてほしい

時に、気兼ねなく SOS を発信できる、緩やかな見守りツールなるもの(モノ)づくりを行うものであり、同時に一人暮らし高齢者等と支援者なる応援団を効果的に紡ぐことができるかという、もの(者)づくりの両面にわたった社会実験である。



目的に応じて、使い分けができるカード一式

目的に応じて、カードを装置の上に置いて、ボタンを押すだけで、つながるシステムである。例えば、「黒部市社会福祉協議会」のカードをのせて、ボタンを押すと、「どうかされましたか？」と電話がかかってくるというものである。これであれば、一人暮らしの方であっても、家族カード、商工会議所カード、県生活協同組合カードさえ置けば、たとえ電球の交換でも、食事の宅配等、気軽にボタンを押して、思いを発信することができる。装置(モノ)を通じて人(者)がつながる、ネットワークが構築されるシステムということである。この社会実験の一連の研究成果については、本学紀要(村上満ほか(2020),「地域福祉分野における ICT 利活用に関する研究—テキストマイニングを用いた“ICT 実証実験”の効果検証—」,第12巻,第1号, pp.33-54)に研究ノートとして掲載された。

この社会実験を通じて、これからの見守り等には、開発した装置のような緩やかなツールを通じた ICT の活用は、一人暮らし高齢者だけでなく、ひとり親家庭はじめどんな世帯にも応用可能な“モノ”ではないかと考えている。以上のことから、助けてほしい時に、気兼ねなく、必要なだけ助けてもらえる安心感や受容感を ICT から受け取られると思えるかどうか、今後の普及の鍵になる。

今後は、装置の開発という“モノづくり”と、それを活用できる受け手、支える地域の担い手の育成という“者づくり”が同時に進められていくことで、地域福祉分野における ICT 利活用の可能性を見出すことにつながっていくと示唆されたものと考えている。

#### おわりに

この3年間、新型コロナウイルスのまん延に伴い、新しい生活様式が求められ始めた。

しかし、このような状況を少しでも前向きに捉えるならば、感染予防には欠かせない道具的サポートとして使用された ICT こそ、新型コロナウイルス等の社会的脅威をも救う重要なツールになると改めて気づかされ、見直されたとは言えないだろうか。最後に発表した社会実験もこのような背景から発想されたものであり、非日常下で効果を発揮できるシステムではある。しかし、実践現場に求められることは、何よりも普段の暮らしの中で活用されてこそである。したがって、どんな研究もモノづくりとしての開発とそれを受け入れ、利活用できる人材という者づくりを、いかに一体的に進めていくか、が鍵である。

今回、子ども研究サロンの話題提供者として貴重な発表の機会を得た。

あらためてここに感謝申し上げたい。

## 子ども育成学部公開講座のあゆみ

### ◆H20. 12. 21 子ども育成学部創設記念セミナー

#### \*テーマ「明日の地域を創る子ども育成」

記念講演「これからの教育と子ども育成」  
寺尾慎一（福岡教育大学教授）  
記念講演「これからの福祉と子ども育成」  
炭谷 茂（(福)恩賜財団済生会理事長）  
パネルディスカッション「子ども育成学部への期待」  
寺尾慎一（福岡教育大学教授）  
炭谷 茂（(福)恩賜財団済生会理事長）  
田中忠治（富山国際大学学長）  
宮田伸朗（子ども育成学部長予定者）

### ◆H21. 9. 26 子ども育成学部開設記念フォーラム

#### \*テーマ「明日の地域を拓く子ども育成」

記念講演「明日の地域を拓く子ども育成」  
大橋謙策（日本社会事業大学学長）  
トークセッション「子ども育成学部への期待と課題」  
谷内早苗（富山県保育士会前会長）  
上田雅浩（富山県私立幼稚園協会会長）  
田畑 章（富山県小学校教育研究会社会科部長）  
品川洋介（富山県社会福祉士会会長）  
宮田伸朗（子ども育成学部長）

### ◆H21. 12. 5 子ども育成学部第1回公開セミナー

講演「子どもの世界～子どもはいかにして学び育つか～」  
嶋野道弘（文教大学教授）

### ◆H22. 10. 9 第2回子ども育成フォーラム

講演「子どもの鼻の穴のふくらみに夢をかけて」  
小林毅夫（前上越市教育長・上越教育大学教授）  
対談「子ども育成の真髄に迫る」  
小林毅夫（前上越市教育長・上越教育大学教授）  
水上義行（子ども育成学部教授）

### ◆H22. 12. 4 子ども育成学部第2回公開セミナー

#### \*テーマ「教育と福祉の協働～スクールソーシャルワークの可能性～」

講演「教育と福祉の協働～スクールソーシャルワークの可能性～」  
山野則子（大阪府立大学大学院教授）  
事業説明「富山県におけるスクールソーシャルワーク活用事業について」  
矢谷義一（富山県教育委員会指導主事）  
事業説明「富山県におけるスクールソーシャルワーク実践」  
平野由紀子（富山県教育委員会スクールソーシャルワーカー）

### ◆H23. 6. 11 第3回子ども育成フォーラム

講演「子ども・子育て新システムがめざすもの」  
山縣文治（大阪市立大学生活科学部／大学院生活科学研究科教授）

### ◆H23. 12. 3 子ども育成学部第3回公開セミナー

\*テーマ「『子ども園』のゆくえと子ども育成」  
基調報告「『子ども・子育て新システム』の動向と課題」  
開 仁志（子ども育成学部 准教授）

シンポジウム「『子ども園』のゆくえ」

シンポジスト  
蜷川徳子（同朋こども園 園長）  
牧野三枝子（じんぼ保育園 園長）  
開 仁志（子ども育成学部准教授）  
コーディネーター  
水田聖一（子ども育成学部教授）

### ◆H24. 6. 30 第4回子ども育成フォーラム

#### \*テーマ「幼保小の連携と子ども育成」

講演「幼保小の連携・接続～確かな保育・教育の実現を目指して～」  
小林宏己（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

### ◆H24. 12. 1 子ども育成学部第4回公開セミナー

#### \*テーマ「いじめ問題と子ども育成」

基調報告「いじめをめぐる現状と課題」  
村上 満（子ども育成学部講師）  
シンポジウム「いじめをなくすために何が必要か」  
シンポジスト  
長井 忍（射水市立小杉小学校校長）  
浅野朱実（富山県PTA連合会副会長）  
村上 満（子ども育成学部講師）  
コーディネーター  
水上義行（子ども育成学部教授）

### ◆H25. 6. 29 第5回子ども育成フォーラム

#### \*テーマ「共存・共生のための特別支援教育と発達障害」

講演「共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進」  
宮崎英憲（東洋大学参与 東洋大学名誉教授）

### ◆H26. 2. 15 子ども育成学部第5回公開セミナー

#### \*テーマ「子ども育成における多文化共生」

報告「保育所・小学校・ボランティア活動における支援の現状と課題」  
シンポジウム「外国にルーツを持つ子どもたちへの支援の在り方」  
報告者&シンポジスト  
作道純子（射水市子育て支援課主幹）  
稲垣妙子（高岡市立野村小学校校長）  
米田哲雄（「勉強お助け隊」代表）  
福島美枝子（子ども育成学部教授）  
コーディネーター  
彼谷 環（子ども育成学部准教授）

### ◆H26. 7. 5 第6回子ども育成フォーラム

#### \*テーマ「小学校における英語教育」

講演「小学校英語教育の現状・課題と今後の『発展』に備えて」  
新里真男（関西外国語大学教授）

### ◆H26. 11. 15 子ども育成学部第6回公開セミナー

#### \*テーマ「どう育てる どう育つ 子ども育成の専門職」

パネルディスカッション  
「どう育てる どう育つ 子ども育成の専門職」  
パネリスト



佐々木美紀子（富山市立西田地方保育所所長  
富山市保育連盟副会長）  
高木要志男（富山市立堀川小学校校長  
富山県小学校教育研究会会長）  
室林孝嗣（子ども育成学部准教授 子ども育成学部  
実習指導センター長）

コーディネーター

宮田伸朗（子ども育成学部学部長 教授）

卒業生体験報告

「大学での学び・現場での経験・育ち」

高嶋夏希（富山市立愛宕保育所保育士）

中山恵理（立山町立利田小学校教諭）

#### ◆H27. 6. 28 第7回子ども育成フォーラム

\*テーマ「放課後の子どもたちを健全に育てるために」

講演「子どもの権利から考える放課後施策の課題  
～諸外国の政策動向をふまえて～」

池本美香（㈱日本総合研究所 調査部主任研究員）

#### ◆H27. 11. 28 第7回公開セミナー

\*テーマ「発達障害のある子どもたちを巡る幼保・小の現  
状と連携・接続の課題」

基調報告「円滑な接続を目指した幼保・小の連携」

坂井由紀子（富山県西部教育事務所 特別支援教育指  
導員）

シンポジウム

シンポジスト

福江厚啓（小矢部市立津沢小学校教諭）

萩中由佳子（富山市立雲雀ヶ丘保育所所長、富山  
県保育士会会長）

桂井朋子（高岡市きずな子ども発達支援センター  
発達支援室室長）

コーディネーター

村上 満（子ども育成学部教授）

#### ◆H28. 6. 18 第8回公開フォーラム

\*テーマ「子供の規範意識を育てるために」

講演「子供規範意識 ～芽生えと形成～」

神長美津子（國學院大学 教授）

#### ◆H28. 11. 26 第8回公開セミナー

\*テーマ「『伝え合う力』を育むために ～子どもの育成の専  
門職に求められるもの～」

シンポジスト報告「子どもたちの伝え合う力の現状と理解。  
育むための工夫や手立て」

シンポジスト

鳥内禎久（高岡教育委員会 教育次長・学校教育課長）

波岡千穂（伸和学園堀川幼稚園 副園長 富山県私立  
幼稚園・認定こども園協会 教育研究委  
員長）

屋敷夕貴（宮田校下児童育成クラブ 主事兼支援員）

コーディネーター

彼谷 環（子ども育成学部教授）

#### ◆H29. 7. 2 第9回公開フォーラム

\*テーマ「主体的学びの時代の子どもと教師」

講演「主体的学びの時代の教師のリーダーシップ」

赤坂真二（上越教育大学教職大学院 教授）

#### ◆H29. 11. 26 第9回公開セミナー

\*テーマ「考えよう！子どもの人権 ～子ども育成の現場で  
できること」

シンポジスト報告「子どもたちと関わる現場から見えてく  
るもの」

シンポジスト

宮田 隼（コミュニティハウスひとのま代表）

中塩真巳（臨床心理士・スクールカウンセラー ほん  
だクリニック所属 富山県臨床心理士会  
長）

座長 村上 満（子ども育成学部教授）

#### ◆H30. 11. 23 第10回子ども育成フォーラム

\*テーマ「グローバル時代に育つ子どもたちの資質・能力」

講演「グローバル時代の対話力を育む」

多田孝志（金沢学院大学 教授）

#### ◆R1. 8. 3 子ども育成学部創立10周年記念・第11回子ども育成フォーラム

\*テーマ「学校ってなんだろう」

講演「学校ってなんだろう」

刈谷剛彦（オックスフォード大学及びニッサン日本問  
題研究所 教授）

#### ◆R2. 3. 20 富山国際大学開学三十周年記念 第12回子ども育成フォーラム

\*テーマ「コロナ禍における学校教育 ～ICTの活用～」

講演「コロナ禍における学校教育 ～ICTの活用～」

小田仁洋（富山市立速星中学校 教頭）

#### ◆R3. 11. 27 第13回子ども育成フォーラム

\*テーマ「教育や保育の実践に生かす特別支援教育の視点」

講演「子供の主体的な学びに寄り添いながら、一人ひとり  
『できた！わかった！』～誘う教師の『授業デザイ  
ン力』～ 特別支援教育の視点を踏まえて～」

柳川公美子（富山総合支援学校教諭）

#### ◆R4. 11. 26 第14回子ども育成フォーラム

\*テーマ「保育と教育の実践に生かすインプロバイゼーシ  
ョン（即興演劇）」

講演「インプロ（即興演劇）から学ぶ<身体表現>と

<コミュニケーション>」

直井玲子（東京学芸大学教育学研究科研究員）

# 2022年度 研究交流活動年報

---

編集：富山国際大学 子ども育成研究交流センター委員会

発行者：富山国際大学子ども育成学部

発行日：2023年8月30日

---